

Title: 「ちょっとそこまで。」



山本 友来  
静岡の田舎で生まれ、栃木、新潟、埼玉で人格を形成し、京都で青春を過ごしたのち、中国の武漢という街で修行を積みました。2007年より再び学生に。懲りずにちょっくら出かけてきます。

## ● 最近のエントリー

- ☞ [ちょっとミャンマーまで。という人々 49～51/183 5月7～9日](#)  
(2009.05.31)
- ☞ [バンコク 46～48/183 5月4～6日](#)  
(2009.05.11)
- ☞ [憎い人のためならず。 44,45,46/183 5月2、3、4日](#)  
(2009.05.09)
- ☞ [Lonely Birthday 44/183 5月2日](#)  
(2009.05.08)

## ● アーカイブ

- ☞ [2010年04月](#)
- ☞ [2010年03月](#)
- ☞ [2010年02月](#)
- ☞ [2009年09月](#)
- ☞ [2009年08月](#)
- ☞ [2009年07月](#)
- ☞ [2009年06月](#)
- ☞ [2009年05月](#)
- ☞ [2009年04月](#)
- ☞ [2009年03月](#)

## ● 投稿カレンダー

## ● カテゴリー一覧

- ☞ [Cambodia](#)
- ☞ [China](#)
- ☞ [India](#)
- ☞ [Japan](#)
- ☞ [Malaysia](#)
- ☞ [Nepal](#)
- ☞ [Singapore](#)
- ☞ [Thailand](#)
- ☞ [Vietnam](#)
- ☞ [熊の準備](#)

## ● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

**OLYMPUS**  
Your Vision, Our Future



RSS 2.0

ちょっとそこまで。 > 2009年05月 アーカイブ

09.05.31

ちょっとミャンマーまで。という人々 49～51/183 5月7～9日

[Tweet](#)
[Check](#)

ご無沙汰しております。

他メンバーのブログでもご報告の通り、先日日本から講師の先生方にお越しいただいてのFW一度目のスクーリングが無事終了しました。

その過酷な準備期間も含め、ご報告を...

といきたいところですが、実は3週間ほど前から更新せずにたまっていた記事がいくつかありますので、時系列にこだわる私としては、順番に公開していきたいと思います。リアルタイムでない話題が続きますが、しばしお付き合い下さい。

~~~~~

5月7～9日。

タイ最北部、ミャンマーとの国境の町、メーサーイ。

ミャンマーとの間には、狭い川が一本流れているだけだ。

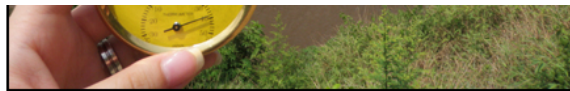
川縁に立てば、双眼鏡を使わずとも向こう側の様子がよく見える。



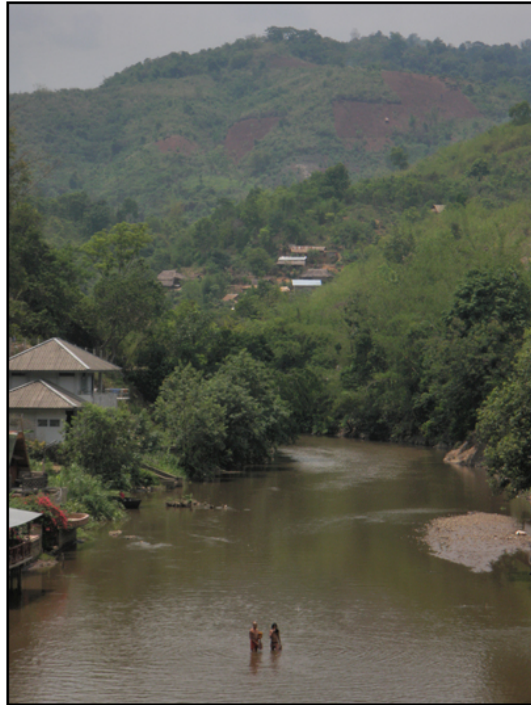
地元の人達も、建前上は川から勝手に国境を越えてはいけないことになっているけれど、こんな暑い日は、泳ぎたくなる気持ちもよくわかる。

よくよく観察していると、いつの間にか向こう岸に渡っている人も...





一番浅い所はくるぶしぐらいまでしかない。



左がタイで、右がミャンマー。  
川のと真ん中を歩いてくる彼らは一体タイとミャンマーどちら側の国民なのか。  
いや、どちら側の「住人」なのか。

日本に暮らしていると忘れてちだけれど、「○○の国民」と「○○の住人」あるいは「○○人」はイコールであるとは限らない。  
この町で知り合ったサイモンさんに「タイの方ですか？」と聞いたら、  
「シャン族です」という答えが返って来た。  
ミャンマーで生まれたシャン族のサイモンさんは、  
祖国でエンジニア、旅行会社と職を変わる間に英語とタイ語を身につけ、  
18年前からはここタイ北部で暮らしているそうだ。  
「タイの方ですか？」という質問は、この辺りの人々には少し曖昧すぎる。  
生まれはどこ？民族は何？育ったのはどこ？国籍は何？  
それぞれに抱えた事情が浮かび上がる。  
それは、次に移動したやはりタイ北部の町、メーサローンでも実感することになる。

つづく。



カテゴリ: [Thailand](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.05.31 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[ちょっとそこまで。 > 2009年05月 アーカイブ](#)

09.05.11

■ バンコク 46〜48/183 5月4〜6日

[Tweet](#)

[Check](#)

しばしの都会生活。



ローカルバスであてもなくふらふらしようと思った二日目、三日目。  
 現地人でも迷うという複雑な路線と種類ごとに違う乗車システム、わかりにくい乗り場、歩く人に抜かされるぐらいに動かない渋滞、外国語表記一切なし...難しすぎて結局断念。  
 代わりにスカイトレインの一日バスを買って市内あちこち行ってみた。



うん、都会だ。  
 でも買い物帰りに、デートの途中で、当然のように線香と花を買い、熱心に祈りを捧げたり、  
 国王の即位記念日に熱狂したり、  
 テレビに夢中で接客がおろそかになるマッサージ師がいたり...  
 なんだか人間臭い街。



カテゴリ: [Thailand](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.05.11 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

ちょっとそこまで。 > 2009年05月 アーカイブ

09.05.09

情は人のためならず。 44,45,46/183 5月2、3、4日

[Tweet](#)

[Check](#)

最近日本語が恋しくなって、バンコクの紀伊国屋書店で文庫本を買った。  
 その一つ、上野千鶴子さんの旅に関するエッセイの中にあった、「情は人のためならず」という一編に深くうなづくことになる出来事が、トラートで起きた。  
 「他人にしてあげた親切は、廻り廻っていずれ自分のもとに返ってくる」というこのことわざが、旅をしていると身にしみえる、という内容だった。  
 いや、正確に言えば、「他人がしてくれた親切は、廻り廻って他の誰かに返すものなんだ」ということだ。



少し長くなるけれど、こんな出来事だった。

トラートへの旅は、バンコクにスーツケースを預けて、カメラと小さなバックパッカーついで身軽に出かけたたった二泊の弾丸旅行。

宿はトラートにとったけれど、目的はさらに90キロほど離れたカンボジア国境のある海沿いのハートレークという小さな小さな町。移動には車で1時間以上かかる。



たった二泊三日で何ができるんだ、と思いながら組んだスケジュールだったけれど、不思議なもので、短い時間なりに出会いはいつも向こうからやってくる。美容室の家族や、材木の貿易をしている会社の御一行様と知り合い、食事や飲み物、トラートまでの滞りの足まで提供していただいた。



言葉は、まったく通じない。

通じた英語は、Yes/No, thank you, bye-bye, TOYOTAだけだった。

どうやって話していたかというと、

彼らがよく使う方法は、英語が話せる知り合いに電話をかけ、通訳をしてもらうというもの。

ジェスチャーで通じなくなると、どこかへ電話をかけ、タイ語で話した後、私に渡してくる。

出ると、相手は名乗ることもなくいきなりブロークンな英語で“He said...”とか “She ask you...”とか言って教えてくれる。

ベトナムでもよくそうされたけど、あくまでもタクシーの運転手とか、宿のおばさんとか、仕事上必要なことを私から聞き出すためにそうしていたのであって、日常会話レベルでこうも頻繁に電話を渡されるのは初めてだ。

手間もお金もかかるのに、彼らのコミュニケーション意欲はすごい。

そして5分おきにかかってくる電話に嫌な顔（は見えないから、声か）一つせずに通訳してくれる名も知らぬお友達のやさしさと根気強さに感心する。





そんな町で楽しく過ごした二日目の夜、貿易商の33歳のコーさんとその仲間たちにトラートまで送ってもらい、いざ別れという時。  
メモ帳に連絡先を書いてもらおうと思ってポケットを探るが、ない！  
かばんの中身を全部出してみても、車のシートの下を見ても、やっぱりない。

ハートレークで落としたんだ。

さっきまでの楽しい気分が一気に消えていく。  
旅で出会った、何人の連絡先が書いてあっただろう？

金門で夕食をごちそうになり、写真を送る約束をしていた家族のメールアドレスも、  
ランソンでナーに書いてもらったサバイバルベトナム語も、  
タイニンで学生の生活について教えてくれたことを書き留めたメモも、  
ブノンペンで「何か困ったことがあったらいつでも連絡して」といつてくれた青年ユーホンの電話番号も、  
全部全部あの小さなノートの中だったのに！

いつでも連絡出来ると思っていた人達との唯一の連絡手段が、こんなに脆いものだったって、なんでもっと早くに気付かなかったのか。  
ケータイをなくした女子高生の気分って、こんな感じなのだろうか。

例の電話通訳に事情を話すと、なんと、今走って来たばかりの90キロ先のハートレークまで戻ってくれるという。  
しかし時間はもう遅い。真っ暗で探しようがないだろう。  
相談して、翌朝、バンコク行きのバスに乗る前の早朝に、もう一度ハートレークに連れて行ってくれることになった。

翌朝、5時半にコーさんの車で迎えが来る。  
一生懸命タイ語で私を励ましなが、ご機嫌で90キロの道のりを飛ばす。  
ハートレークでは前日に見かけた顔ぶれがぞろり。  
コーさんが町中の人に事情を話し、手分けしての大捜索が始まった。  
心当たりをくまなく探して一時間、結局メモ帳は出てこなかった。

もう、十分だった。

探してくれた町中の人にお礼を言って、帰ることにした。

バンコク行きのバスの出発まで時間がないことを通訳を通じて伝えと、  
コーさんは宿に着くなりパッキングを手伝ってくれた上、  
まだ払っていなかった二泊目の宿代をいつのまにか支払い、  
さらにはバスターミナルでバンコク行きの切符まで買ってくれた。  
宿代とバス代はどうしても受け取ってくれなかった。  
早朝から往復3時間近い道のりを、知り合ったばかりの言葉も通じない外国人のメモ帳ひとつのために車を走らせてくれたうえに、ここまでしてくれるなんて...！

コップンカー。  
私ができるタイ語の感謝の表現は、それだけ。  
あまりに乏しくて、もどかしかった。

このお礼を、どうしたらできるんだろう？

「日本に来ることがあったら、絶対に連絡してね、何でもするから」  
中国に住んでいたときも、この旅が始まってからも、  
親切にしてくれた人と別れるたびに何度か口にしたこのセリフ、  
本当は、実現しないってこと、お互いわかってるんだ。  
こうして世界中を自由に飛び回れる私のような立場が、どれだけ特殊かということ、自覚しているから。  
でも、言わずにはられない。

今度は私の番であるということ。  
それはいつか出会う見知らぬ誰かに廻っていくんだ。  
その誰かに  
「どうしてこんなに親切にしてくれるの？」  
と聞かれたら、  
「他の人が私にそうしてくれたから」と答えよう。  
それでいいんだ。

カテゴリ: [Thailand](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.05.09 | [パーマリンク](#) | [コメント \(6\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[ちょっとそこまで。 > 2009年05月 アーカイブ](#)

09.05.08

## Lonely Birthday 44/183 5月2日

[Tweet](#)

[Check](#)

私事で恐縮ですが、  
かつ一週間も前のお話になりますが、  
旅行者すらめったに見かけない町へ向かう移動日に、一人寂しく誕生日を迎えてしまいました。

その前日の、バンコクでの解散日、  
4期生みんなで一日早い誕生会？をしてくれ、プレゼントもいろいろいただき、



さらに夜には、有志でバンコクならではの面白いショーを観に行ったりと、かなり素敵なバースデーだっただけに、当日の寂しさはひとしお...

そんな中、日本からメールやメッセージくれた皆さん、ありがとうございました。

さて、その誕生日に向かっていたのはトラートという、タイ南東部の町。

通りの狭さや、家の天井の高さなど、町のスケールがなんだか日本の住宅地に似ています。







そんなこともあり、さらにちょっと日本が恋しくなったトラート初日でした。

カテゴリ: [Thailand](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.05.08 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)